

# 株主通信

第137期第3四半期報告

平成16年4月1日～平成16年12月31日

The "K"LINE  
The "K"LINE Way  
The "K"LINE Wa  
The "K"LINE Wa

3rd Quarter Business Report

**K** "K"LINE  
川崎汽船株式会社 R

証券コード：9107



## 株主の皆様へ

早春の候、株主の皆様には、  
ますますご清栄のこととお慶  
び申し上げます。

ここに第137期第3四半期  
(平成16年4月1日～12月31日)  
の決算をご報告申し上げます。

後記のとおり、当社グループの業績は本四半期も、お  
かげ様で昨年12月にご報告申し上げました上半期の好  
調を継続し、前年同期を大幅に上回る利益を計上しま  
した。また通期の利益は、新5ヵ年経営計画“K”LINE  
Vision 2008の初年度にして、最終年度(第141期)の  
目標を上回る見通しです。

配当につきましては、先にお知らせしましたとおり、  
前期比5割増の年15円配当を予定しています。

さて、この場をお借りしてご報告申し上げますが、4  
月1日を持ちまして、現取締役会長 新谷 功が取締役相  
談役に就任、私がお後任として取締役会長に就任、取  
締役社長には現専務取締役 前川弘幸が昇格することを  
過日決定し公表しました。

株主の皆様におかれましては、当社並びに新社長に  
一層のご指導ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申  
上げます。

平成17年2月

取締役社長

崎 長 保 英

## 営業の概況

《当期の概況》

### 【一般概況】

(連結) (単位:億円 億円未満四捨五入)

	当第3四半期 (平成16年4月～12月)	前第3四半期 (平成15年4月～12月)	増加額 / 増加率
売上高	6,220	5,378	841/15.6%
営業利益	859	500	358/71.6%
経常利益	858	440	418/95.0%
四半期純利益	463	217	246/113.7%

当第3四半期は、中国を中心としたアジア・BRICs<sup>(注)</sup>  
諸国の輸出入の拡大並びに欧米両地域の経済の安定に  
より、世界の海上荷動きは引き続き活況を呈し、運賃市  
況は全般にわたり好調に推移しました。用船料、燃料  
油価格の高値推移、第3四半期後半からの急激な円高  
進行などのマイナス要因はありましたが、当社グルー  
プは、新5ヵ年経営計画“K”LINE Vision 2008の方  
針に基づき、積極的な営業を展開しつつ、コスト削減と  
合理化努力を重ねた結果、当第3四半期の連結経営成  
績は、上記表のとおり前年同期比大幅増収増益となり  
ました。

(注) BRICs(ブリックス)とは、ブラジル(Brazil)、ロシア  
(Russia)、インド(India)、中国(China)の4カ国の頭文  
字からとったもので、台頭する新興大国を意味する造語。

なお、当第3四半期の事業の種類別セグメント毎の  
売上高及び営業利益は、次のとおりです。

(単位:億円 億円未満四捨五入)

		当第3四半期 (9ヶ月間)	前第3四半期 (9ヶ月間)	前年同期比 増減額 / 増減率	前 期 (12ヶ月間)
海運業	売上高	5,369	4,624	746/16.1%	6,221
	営業利益	771	436	335/76.8%	613
物流・ 港運事業	売上高	756	657	99/15.0%	899
	営業利益	77	56	21/37.5%	81
その他の 事業	売上高	95	98	3/ 3.2%	127
	営業利益	8	7	1/19.9%	13

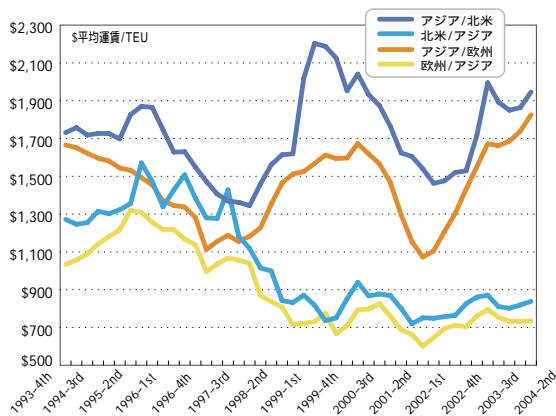
## 【海運業】

### コンテナ船部門

コンテナ船部門は、北米航路で低金利政策継続による旺盛な住宅需要が続くなど、荷動きの鈍化は見られず、欧州航路もユーロ高を背景とした堅調な荷動きが継続しました。カリフォルニア州では、港湾労働者不足により滞船（荷役待ち）などの混乱がありました。代替ルートとして、北米北西岸サービスに新造大型船の投入を始めるとともに、北米東岸サービスを1航路増設するなどサービスの強化と増強を行なった結果、積高は前年同期を上回り、運賃率の改善と相まってコンテナ船部門の売上高は、前年同期を上回りました。

原油高による燃料費の増加、円高等のコスト増加要因はありましたが、引き続きコスト削減運動を推進した結果、利益は前年同期より改善し、所期の目標を上回ることができました。

コンテナ船運賃市況( Containerization International<sup>®</sup> Freight Rates Indicators<sup>™</sup> )



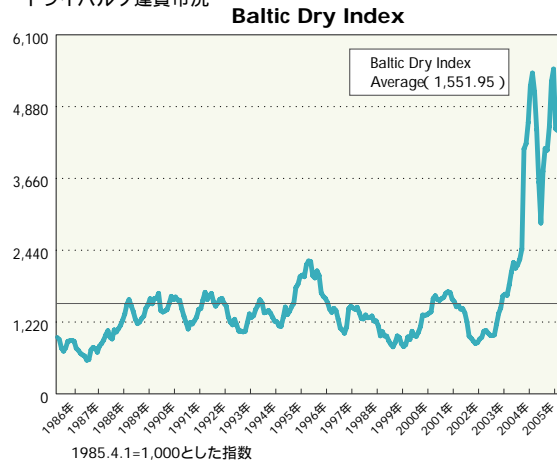
### 不定期専用船部門

撒積船については、第1四半期に一時的な修正局面を迎えた市況が、第2四半期には全面高に転じ、第3四半期には再び過去最高記録を更新しました。燃料費・用船料の高騰などのマイナス要因はありましたが、第3四半期を通じて市況高を享受し、空船率の低減など運航効率の改善と高収益貨物の確保に努めた結果、売上高・利益ともに前年同期を大きく上回ることができました。

自動車船については、欧米、豪州や中東で自動車販売が好調に推移する中で、当社の極東出し輸送台数は前年同期比で大きく増加しました。また、大西洋航路などの三国間輸送は引き続き増加傾向にあり、当社輸送台数は全体では前年同期を大きく上回りました。その結果、売上高は前年同期を上回り、円高、用船料の高騰、燃料費高などのマイナス要因にもかかわらず、効率配船による運航コストの削減効果もあり、安定した利益を上げることができました。

以上の結果、当部門の売上高は前年同期を大幅に上回り、引き続き安定した利益を上げることができました。

### ドライバルク運賃市況

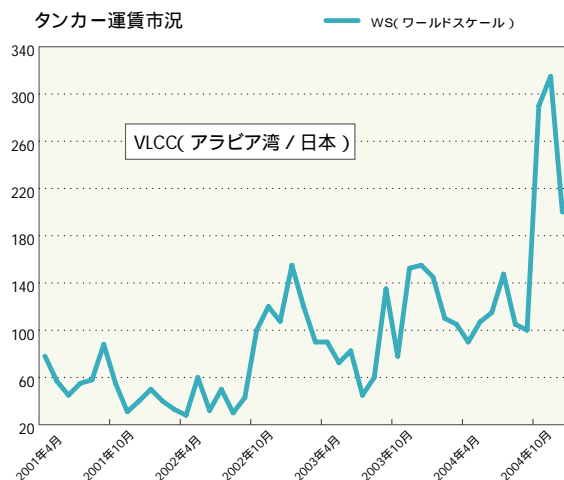


## エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については当期、当社の関与するプロジェクト船は合計で 26 隻となりました。新造船の投入を含め、安定的な利益を確保しました。

電力会社向け石炭輸送については、新規の石炭火力発電所の運転開始と電力需要の回復により、当第 3 四半期終了までの輸送実績は約 1,000 万トンを達成、積出し港の船混み緩和にともない船舶の稼働率も安定し、利益率は大きく改善しました。

油槽船については、引き続き中国や米国を中心とした堅調な石油需要により、船腹需給も引き締まり、運賃市況は大きく上昇、新造ダブルハル VLCC(超大型タンカー)及び 10 万トン型タンカーの就航に加え、効率的な配船に努めた結果、前年同期を上回る売上高を収め、所期の目標を上回る利益を確保することができました。



## 内航・フェリー部門

内航・フェリー部門は、燃料費の高騰などコスト増加要因があったものの、効率配船や輸送量の増加に努め、ほぼ前年同期並の業績となりました。

この結果、海運業部門全体では、売上高は前年同期比 16.1%、営業利益は 76.8%の大幅増となりました(経常利益 754 億円)。

## 【物流・港運事業】

コンテナ船の事業規模の拡大にともない海外事業会社を中心に増収となり、グループ全体では、売上高は前年同期比 15.0%増、営業利益は同 37.5%増となりました(経常利益 83 億円)。

## 【その他の事業】

道路貨物運送業ほか、上記以外の事業においては、売上高は前年同期比 3.2%減、営業利益は同 19.9%増となりました(経常利益 19 億円)。

## 《平成 17 年 3 月期の連結業績予想》

(単位:億円 億円未満四捨五入)

	当期予想 (平成17年3月期)	前期実績 (平成16年3月期)	増加額 / 増加率
売上高	8,230	7,247	983/14%
営業利益	1,090	705	385/55%
経常利益	1,080	626	454/73%
当期純利益	600	332	268/81%

(通期連結業績予想)(続き)

海運業では、コンテナ船部門は、平成17年1月にWTOが衣料品の輸入枠を撤廃したことにより中国、インドを中心とした輸出荷動きの増加が予想されることもあり、積高及び運賃ともに堅調に推移すると予想されます。当社は、新造パナマックス4,000個型船隊を活用したアジア/北米北西岸航路の大型化及び、荷動きの伸張著しいアジア/北米東岸向け新ループ増設の当期中完了など、サービスの増強を進めており、さらなるコスト削減運動の展開と合わせて、売上高、利益ともに前期を大きく上回る見通しです。

不定期専用船部門では、撤積船市況は第4四半期も高値圏で推移する見込みで、期を通じて歴史的な高値を記録する見通しです。このような市場環境に恵まれ、売上高、利益いずれも前年を大幅に上回る見込みです。

自動車船は欧米、豪州、中近東での自動車販売が引き続き好調に推移するものと考えられ、当社の輸送台数は前期比大きく増加の見込みです。部門全体としては、安定した売上高、利益を確保できる見通しです。

エネルギー資源輸送部門では、液化天然ガス運搬船が、各プロジェクト船とも順調に稼働し、電力会社向け石炭輸送については、石炭火力の需要が堅調に推移しており、油槽船は、原油価格高騰の世界経済への影響が懸念されますが、石油需要は当面高い水準を維持すると予想されるため、部門全体では、安定した収益を確保できる見通しです。

内航・フェリー部門も概ね期央予想の荷動き及び業績で推移する見通しです。

海運業部門全体では、売上高、利益ともに対前期比で

大きく増加する見込みです。

物流・港運事業部門では、中国を始めとして世界的に荷動きが好調であることが下支えとなり、総じて強含みの状況にあります。

その他の事業部門では、道路貨物運送業ほか、ほぼ前期並みの業績で推移する見通しです。

なお、当社の年間配当金につきましては、最終的な通期の業績を踏まえて決定させていただきますが、現時点では昨年11月11日に発表のとおり、1株当たり15円配当(うち7.5円は中間配当金として配当済み)を予定させていただきます。

お知らせ：定時株主総会開催地の件

当社株主総会は昨年まで本店所在地である兵庫県神戸市で開催してまいりましたが、本年より本社の所在する東京都港区付近にて開催することで準備を進めています。

近年は株主様のご住所の分布は大多数が首都圏となっていることに鑑み、より多くの株主様が総会にご出席頂けるよう、開催地の変更を予定しているものです。

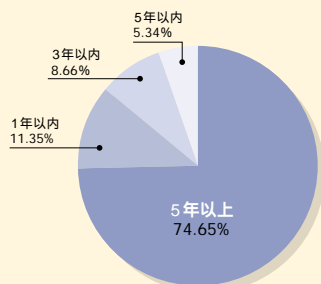
従来神戸にてご出席頂いていた株主の皆様にはご不便をお掛けすることとなりますが、開催地変更の趣旨に鑑みご理解を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

本年度開催地の詳細は追って決定の上、株主総会招集通知にてご案内申し上げます。開催地変更につき予めお含み置き下さいますようお願い申し上げます。

《約2,800通のご回答をありがとうございました。》

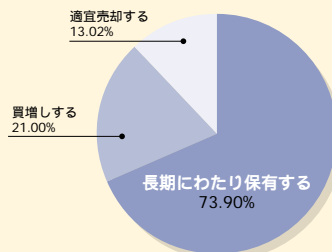
株主様よりご回答いただきましたアンケートの集計結果をご報告します。  
皆様からの貴重なご意見を反映して、今後の株主通信をさらに充実してまいります。

Q 当社株式をどの程度の期間お持ちですか。

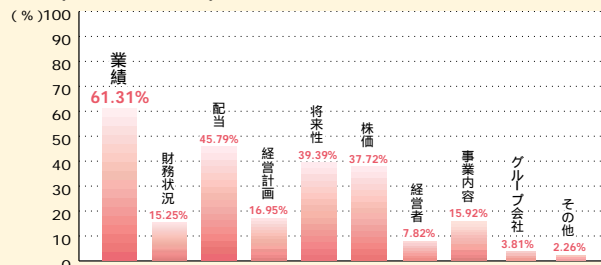


当社株式の所有期間は、「5年以上」の株主様が最も多く、また今後につきましても「長期にわたり保有する」とお考えの株主様が最も多い結果となりました。皆様のご期待に応えるべく、さらに中長期的な視点でのご報告を心がけてまいります。

Q お手持ちの当社株式を今後どのようにされたいとお考えですか? (複数回答あり)

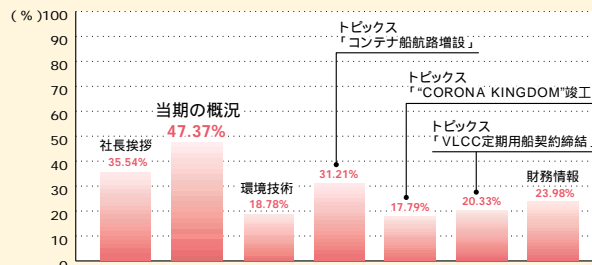


Q 当社のどのような点にご関心をお持ちでしょうか? (複数回答あり)



「業績」「配当」に対するご関心の高さを改めて認識いたしました。一方、「将来性」「株価」といった点につきましても、引き続きわかり易いご報告を心がけてまいります。

Q 今回の株主通信では、どの記事にご興味がありましたか? (複数回答あり)



最もご回答の多かった「当期の概況」につきましては、部門ごとのわかり易いご報告を心がけてまいります。今後も株主の皆様のご関心にお応えしていきたいと存じます。また、「社長挨拶」につきまして皆様のご関心が高かったことに、一同心より御礼申し上げますとともに、今後も「経営者の声」を株主の皆様にお届けできるよう努めてまいります。

**"K" LINE KINKAI**



時代の先を読み、より環境に配慮した海上輸送をめざします。

# 物流を感じ取る



**"K" LINE KINKAI**

**川崎近海汽船株式會社**

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

科 目	当第3四半期末 平成16年12月31日現在	前連結会計年度末 平成16年3月31日現在	比較増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	34,475	23,370	11,105
受取手形及び営業未収金	88,144	75,986	12,158
短期貸付金	5,439	11,830	6,391
有価証券	34	54	19
たな卸資産	11,002	9,303	1,698
繰延及び前払費用	23,962	21,507	2,454
その他流動資産	17,428	15,638	1,789
貸倒引当金	1,050	1,046	4
<b>流動資産合計</b>	<b>179,435</b>	<b>156,643</b>	<b>22,791</b>
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
船舶	179,409	171,699	7,710
建物及び構築物	27,487	29,131	1,643
機械装置及び運搬具	9,229	6,580	2,649
土地	34,334	35,446	1,111
建設仮勘定	35,149	34,322	826
その他有形固定資産	3,796	3,793	3
<b>有形固定資産合計</b>	<b>289,407</b>	<b>280,973</b>	<b>8,434</b>
<b>無形固定資産</b>			
連結調整勘定	41	77	35
その他無形固定資産	6,670	5,837	832
<b>無形固定資産合計</b>	<b>6,712</b>	<b>5,914</b>	<b>797</b>
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券	86,478	80,201	6,276
長期貸付金	13,429	15,214	1,785
繰延税金資産	4,354	3,715	639
再評価に係る繰延税金資産	218	219	0
その他長期資産	25,330	16,612	8,718
貸倒引当金	502	423	78
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>129,309</b>	<b>115,539</b>	<b>13,769</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>425,428</b>	<b>402,427</b>	<b>23,000</b>
繰延資産	31	63	31
<b>資産合計</b>	<b>604,896</b>	<b>559,135</b>	<b>45,761</b>

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科 目	当第3四半期末 平成16年12月31日現在	前連結会計年度末 平成16年3月31日現在	比較増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び営業未払金	61,341	61,017	324
社債短期償還金	8,000	5,000	3,000
短期借入金	59,857	66,768	6,911
未払法人税等	21,140	16,656	4,483
賞与引当金	1,603	2,220	616
リース債務	1,416	1,456	40
その他流動負債	27,965	24,966	2,999
<b>流動負債合計</b>	<b>181,324</b>	<b>178,086</b>	<b>3,238</b>
<b>固定負債</b>			
社債	43,000	46,000	3,000
長期借入金	143,232	151,483	8,250
再評価に係る繰延税金負債	3,105	2,061	1,044
退職給付引当金	12,090	13,063	972
役員退職慰労引当金	2,237	2,135	102
特別修繕引当金	11,018	9,680	1,338
長期リース債務	9,143	11,102	1,958
その他固定負債	23,634	16,560	7,073
<b>固定負債合計</b>	<b>247,463</b>	<b>252,085</b>	<b>4,622</b>
<b>負債合計</b>	<b>428,788</b>	<b>430,172</b>	<b>1,383</b>
<b>(少数株主持分)</b>	<b>8,901</b>	<b>7,956</b>	<b>944</b>
<b>(資本の部)</b>			
資本金	29,689	29,689	-
資本剰余金	14,534	14,535	0
利益剰余金	103,903	66,964	36,938
土地再評価差額金	6,797	5,093	1,704
その他有価証券評価差額金	15,048	11,801	3,247
為替換算調整勘定	2,003	6,310	4,307
自己株式	764	767	3
<b>資本合計</b>	<b>167,206</b>	<b>121,006</b>	<b>46,200</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>604,896</b>	<b>559,135</b>	<b>45,761</b>



## 連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科 目	当 第 3 四 半 期 自平成16年 4月 1日 至平成16年12月31日	前 年 同 期 自平成15年 4月 1日 至平成15年12月31日	比較増減
売上高	621,970	537,841	84,129
売上原価	495,677	449,059	46,617
販売費及び一般管理費	40,402	38,738	1,663
営業利益	85,891	50,042	35,848
営業外収益			
受取利息	598	527	70
受取配当金	907	765	142
持分法による投資利益	408	434	25
為替差益	1,083	-	1,083
その他営業外収益	602	639	37
営業外収益合計	3,600	2,367	1,233
営業外費用			
支払利息	3,566	4,214	648
為替差損	-	4,092	4,092
その他営業外費用	151	112	38
営業外費用合計	3,717	8,419	4,701
経常利益	85,773	43,990	41,783
特別利益			
固定資産売却益	352	929	576
投資有価証券売却益	326	228	97
その他特別利益	99	189	89
特別利益合計	778	1,347	568
特別損失			
固定資産売却損	96	3,833	3,736
減損損失	7,037	-	7,037
関係会社整理損失	3,050	-	3,050
固定資産除却損	959	4	954
その他特別損失	1,362	2,932	1,570
特別損失合計	12,505	6,770	5,735
税金等調整前四半期純利益	74,046	38,567	35,478
法人税等	26,534	16,220	10,314
少数株主利益	1,213	685	527
四半期純利益	46,298	21,661	24,636

# 個別財務諸表

## 個別貸借対照表

科 目	当第3四半期末 平成16年12月31日現在	前 期 末 平成16年3月31日現在	比較増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金・預金	4,850	6,864	2,014
海運業未収金	61,901	53,941	7,959
短期貸付金	26,710	10,514	16,195
立替金	6,698	5,856	842
貯蔵品	8,816	7,553	1,263
繰延及び前払費用	22,373	20,103	2,269
代理店債権	4,193	2,058	2,134
繰延税金資産	2,493	2,550	56
その他流動資産	4,227	2,205	2,022
貸倒引当金	355	872	517
<b>流動資産合計</b>	<b>141,911</b>	<b>110,776</b>	<b>31,134</b>
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
船舶	44,013	47,299	3,286
建物	3,894	3,970	75
構築物	245	193	52
器具・備品	474	501	26
土地	22,147	23,359	1,211
建設仮勘定	67	618	551
その他有形固定資産	1,021	1,083	61
<b>有形固定資産合計</b>	<b>71,864</b>	<b>77,025</b>	<b>5,161</b>
<b>無形固定資産</b>			
ソフトウェア	2,087	2,306	218
ソフトウェア仮勘定	760	256	503
施設利用権等	19	17	2
<b>無形固定資産合計</b>	<b>2,867</b>	<b>2,579</b>	<b>287</b>
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券	64,782	60,059	4,722
関係会社株式	37,617	32,251	5,366
長期貸付金	35,414	38,720	3,305
長期前払費用	1,678	1,217	460
保証金・敷金	3,136	3,203	67
その他長期資産	7,163	4,295	2,868
貸倒引当金	762	228	534
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>149,029</b>	<b>139,519</b>	<b>9,510</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>223,761</b>	<b>219,124</b>	<b>4,636</b>
<b>繰延資産</b>			
社債発行費	31	63	31
<b>繰延資産合計</b>	<b>31</b>	<b>63</b>	<b>31</b>
<b>資産合計</b>	<b>365,705</b>	<b>329,965</b>	<b>35,739</b>

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科 目	当第3四半期末 平成16年12月31日現在	前 期 末 平成16年3月31日現在	比較増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
海運業未払金	51,408	47,373	4,034
社債短期償還金	8,000	5,000	3,000
短期借入金	32,516	27,390	5,125
コマシヤル・ペーパー	4,000	2,000	2,000
未払法人税等	18,539	14,331	4,207
前受金	12,535	11,631	904
預り金	4,126	3,056	1,069
代理店債務	4,087	5,132	1,045
賞与引当金	245	1,019	774
その他流動負債	2,165	1,854	311
<b>流動負債合計</b>	<b>137,624</b>	<b>118,790</b>	<b>18,833</b>
<b>固定負債</b>			
社債	43,000	46,000	3,000
長期借入金	38,473	52,069	13,595
退職給付引当金	1,409	2,092	682
役員退職慰勞引当金	1,470	1,292	178
特別修繕引当金	1,226	1,504	277
繰延税金負債	3,875	6,050	2,175
再評価に係る繰延税金負債	2,862	1,817	1,044
その他固定負債	6,149	3,508	2,640
<b>固定負債合計</b>	<b>98,467</b>	<b>114,335</b>	<b>15,868</b>
<b>負債合計</b>	<b>236,091</b>	<b>233,126</b>	<b>2,965</b>
<b>(資本の部)</b>			
<b>資本金</b>			
資本金	29,689	29,689	-
<b>資本剰余金</b>			
資本準備金	14,534	14,534	-
その他資本剰余金	-	0	0
自己株式処分差益	-	0	0
<b>資本剰余金合計</b>	<b>14,534</b>	<b>14,535</b>	<b>0</b>
<b>利益剰余金</b>			
利益準備金	2,540	2,540	-
任意積立金	-	-	-
特別償却準備金	2,162	1,969	193
圧縮記帳積立金	2,343	2,452	109
別途積立金	29,052	11,052	18,000
当期未処分利益	31,555	21,717	9,837
<b>利益剰余金合計</b>	<b>67,652</b>	<b>39,731</b>	<b>27,921</b>
土地再評価差額金	4,720	3,016	1,704
その他有価証券評価差額金	13,665	10,520	3,145
自己株式	649	653	3
<b>資本合計</b>	<b>129,613</b>	<b>96,839</b>	<b>32,774</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>365,705</b>	<b>329,965</b>	<b>35,739</b>

# 個別損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科 目	当 第 3 四 半 期		前 年 同 期		比較増減
	自平成16年4月1日 至平成16年12月31日		自平成15年4月1日 至平成15年12月31日		
営業収益					
海運業収益					
運賃	420,185		369,541		50,643
貸船料	62,017		55,494		6,523
その他海運業収益	12,873		10,707		2,165
海運業収益計	495,076		435,743		59,332
その他事業収益	694		656		37
営業収益計	495,770		436,400		59,369
営業費用					
海運業費用					
運航費	215,056		204,118		10,938
船費	6,451		6,283		168
借船料	160,946		140,019		20,927
その他海運業費用	35,495		37,088		1,592
海運業費用計	417,950		387,508		30,441
その他事業費用	519		424		94
一般管理費	10,364		9,309		1,054
営業費用計	428,833		397,242		31,590
営業利益	66,936		39,157		27,778
営業外収益					
受取利息・配当金	2,790		1,244		1,545
為替差益	379		-		379
その他営業外収益	130		165		34
営業外収益計	3,301		1,409		1,891
営業外費用					
支払利息	1,619		2,138		519
為替差損	-		3,487		3,487
その他営業外費用	80		68		11
営業外費用計	1,699		5,695		3,995
経常利益	68,538		34,872		33,666
特別利益					
固定資産売却益	-		59		59
投資有価証券売却益	234		30		203
その他特別利益	-		4		4
特別利益計	234		94		140
特別損失					
固定資産売却損	55		696		640
固定資産除却損	910		-		910
関係会社株式評価損	2,954		1,439		1,514
減損損失	4,684		-		4,684
その他特別損失	407		5,195		4,788
特別損失計	9,012		7,331		1,680
税引前当期純利益	59,760		27,635		32,125
法人税等	22,565		10,552		12,013
当期純利益	37,195		17,083		20,112
前期繰越利益	535		247		287
土地再評価差額金取崩額	1,704		19		1,684
自己株式処分差損	33		-		33
中間配当金	4,437		2,962		1,474
当期末処分利益	31,555		14,348		17,206

ケイライントラベルは、出張や個人旅行、各種ツアーをお取り扱いするプロフェッショナル企業として高品質のサービスを提供しています。



## Business Trip Consulting

ビジネストラベル  
出張関連業務をトータルにサポート

## System Solution

ビジネストラベル/  
システムソリューション

## Group Tour etc..

- キルトツアー
- 中国ビジネスツアー
- 広告業界関連ツアー
- ホームステイ



私どもは、企業のご出張手配はもちろんのこと、特色ある各種ツアーを企画しております。また、国内出張の手配システムや出張旅費精算システムのご提案など、最新のテクノロジーを活用したビジネストラベル/システムソリューションをご提案しています。

### ケイライントラベル株式会社

本社・東京旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F  
 阪神営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F  
 大阪駐在事務所 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F  
 hpアドレス <http://www.klineair.co.jp/travel> <http://www.quilters-shop.com>

TEL:03-3506-3466  
 TEL:078-391-1701  
 TEL:06-6443-8777

**K** "K" LINE  
 "K" Line (Japan) Ltd. <sup>®</sup>

SEAWARD

# コンテナも旅をする。



日本から世界へ、世界から日本へ。

私たちの暮らしを豊かにする様々な貨物を輸送するコンテナ船サービス。

**"K" LINE** は、世界の海に張り巡らされた定期航路ネットワークを駆使して、  
 グローバルに、迅速に且つ安定したコンテナ輸送サービスを提供しています。

●定期航路グローバルネットワーク

北米航路  
 欧州航路  
 アジア航路  
 中国航路  
 インド・パキスタン・PG航路  
 豪州航路  
 南米航路  
 南アフリカ航路  
 大西洋航路



<http://www.klj.kline.com>

## ヤラ社向けアンモニア輸送船長期用船契約

当社は、昨年 11 月に世界最大のアンモニアメーカーであるノルウェーのヤラ社 (Yara) と新造アンモニア輸送船 2 隻について長期用船契約を締結し、大宇造船海洋(株)に 38,000m<sup>3</sup>型アンモニア輸送船 2 隻を発注しました。

本件は、長期間にわたる安定収益が見込まれ、当社に大きく貢献するものと期待されています。また、当社が LPG、LNG 輸送を通じて、従来より蓄積してきた液化ガス輸送のノウハウを活用しながら進出を図った新規事業分野であり、非常に意義あるものと捉えています。世界のアンモニア需要は、主に肥料・化学繊維の原料として堅調な伸びが見込まれる一方、生産拠点の産ガス国への移転による海上輸送の長距離化が予想され、船腹需要の増加が期待されています。今回の新造船 2 隻を始めとして、当社は今後も積極的かつグローバルにアンモニア輸送ビジネスを展開していく所存です。



ヤラ社との調印式

## 新造 LNG 船の定期用船契約締結

当社は、中東産 LNG の韓国向け輸送を皮切りとして、三国間プロジェクトに次々参画し着実にそのサービスをワールドワイドに拡大してきました。さらに、欧州・インド向けに輸送する各プロジェクトにおいて、次々定期用船契約に調印し三国間輸送の船隊を発展させてきました。また、昨今欧州・米国地域向け LNG トレードで、輸送量の急激な増大が見込まれていますが、当社はこれら地域へのビジネスにも積極的に取り組むべく、平成 14 年 5 月にロンドンに LNG 拠点を開設し、平成 15 年 7 月には米国ヒューストンにも拠点を構え、東京、ロンドン、ヒューストンからなる三極体制を完成しました。

そのような中で、当社は、このたびサハリンエナジー社及びカタールのラスガスⅡ社向けに新造 LNG 船の定期用船契約を締結、また大阪ガスインターナショナルトランスポート(株)・日本郵船(株)と共有にて新造 LNG 船 1 隻の造船契約を締結しました。

### 《サハリンエナジー社向け定期用船》

当社は、昨年 11 月、(株)商船三井、プリモルスク SHIPPING 社 (本社：ロシア・ナホトカ) と共に、平成 20 年より 20 年間にわたる新造 LNG 船 1 隻の定期用船契約をサハリンエナジー社と締結しました。シェルベトロリウム社、三井物産(株)、三菱商事(株)等の出資により設立されたサハリンエナジー社は、ロシア・サハリン州にてエネルギー開発を行なうサハリンⅡプロジェクト事業会社であり、本契約は次代のわが国による基幹エネルギー調達の一翼を担うものです。

### 《カタール ラスガスⅡ社向け定期用船》

ラスガスⅡ社 (カタール国営石油・ガス会社カタール・ベトロリウム 70%、エクソンモービル 30%) 向けには当社を含む邦船主コンソーシアムにてすでに 4 隻の定期用船契約を締結済みですが、昨年 12 月、新たに三井物産(株)をメンバーに加え、5 隻目の定期

用船契約を締結しました。当社は、今後も拡大が続くと言われて  
いるカタールからの LNG 輸送に積極的に取り組んでいく所存です。

《大阪ガスインターナショナルトランスポート(株)・日本郵船(株)  
と共有による LNG 船造船契約》

昨年 12 月、大阪ガス(株)が平成 21 年より輸入開始するオマー  
ン国カルハット・プロジェクトの LNG 輸送に投入することを主目  
的に、LNG 船 1 隻を川崎造船(株)に発注しました。独立ストレッ  
チ球形(モス型)タンクの採用により同タンク形式としては世界最  
大級の 153,000m<sup>3</sup>の積載容量を実現しました。

当社は今後も国内外顧客への対応に加え、三国間ビジネスや  
CNG 船(圧縮天然ガス)の研究開発等、事業拡大に向け引き続き積  
極的に取り組んでいきます。



サハリンエナジー社との調印式

## 当社債券格付の引上げ

日本格付研究所(JCR)及び格付投資情報センター(R&I)によ  
る当社の債権格付けが、以下のとおり引き上げられました。

《日本格付研究所(JCR)平成 16 年 12 月 28 日付》

長期債券格付け:「A-」「A」(シングル A フラット)

国内 CP 格付け:「J 1」(据置)

《格付投資情報センター(R&I)平成 17 年 2 月 10 日付》

長期優先債務格付け:「BBB+」「A-」(シングル A マイナス)

コマーシャルペーパー:「a 2」「a 1」(a-ワン)

JCR は、① 2 期連続で過去最高の業績達成が予想され、中期経  
営計画「K LINE Vision 2008」において利益面で早くも最終年  
度目標を達成する見込みである点及び②コスト削減努力やコンテ  
ナ船でのアライアンス効果等で収益が安定してきており、財務内  
容の改善が見込まれる点をあげて評価しています。

また、R & I は、①得意とするコンテナ船部門が需給関係の安定  
化により、運賃変動リスクが低下している点及び②コンテナ船以  
外の部門での新規顧客、長期契約の獲得が進み、それが将来利益の  
安定化と財務改善につながる点を格付け変更事由にあげています。

今後とも「K LINE Vision 2008」の方針に従い安定収益体制  
のもと財務体質のさらなる改善、強化を図り、A 格付けの安定的な  
維持とさらなる向上を目指したいと考えます。

過去 3 年の長期債格付推移(平成 17 年 2 月現在)

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
日本格付研究所 (JCR)	(長期債)	BBB+	A-	A
格付投資情報 センター(R&I)	(長期債)	BBB+	BBB+	A-
スタンダード&プアーズ (S&P)	(長期債) (アウトック)	BB+	BB+	BB+
		-	安定的	ポジティブ

The "K"LINE  
The "K"LINE Way  
The "K"LINE Wa  
The "K"LINE W

**K "K" LINE**  
川崎汽船株式会社<sup>®</sup>

〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号  
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : <http://www.kline.co.jp>

(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

